

子どもが 「自分の気持ちを伝えられる」 状況づくり

～コミュニケーションの構造を理解することから～



神奈川県立中原養護学校
柳沼 佑介

対象生徒 Aさんについて



中学部 2 年生 女子

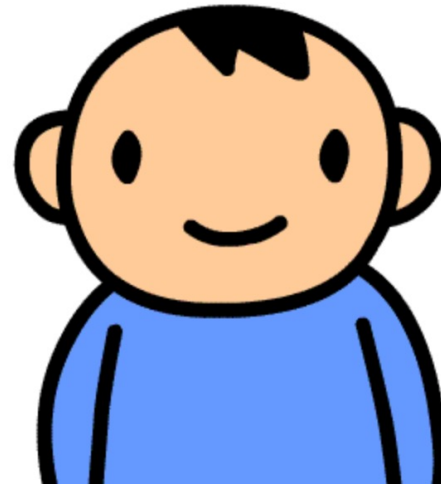
肢体不自由 知的障がい
(重度重複障がい)

対象生徒 Aさんについて



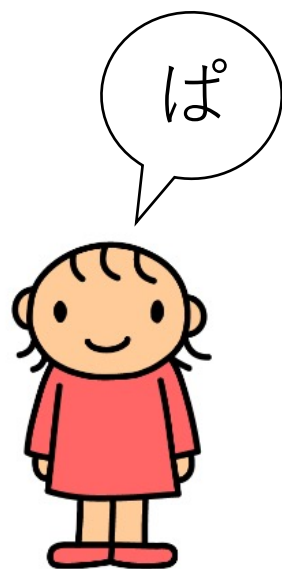
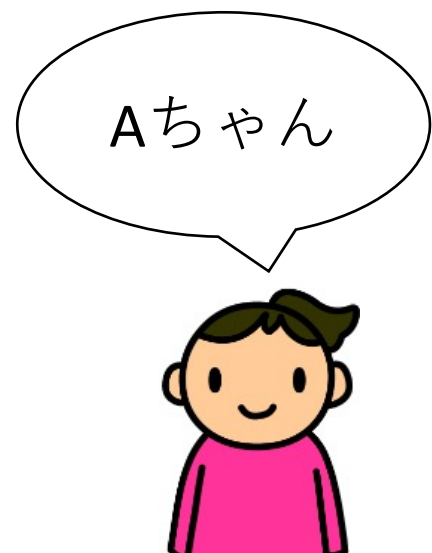
- ・ ずり這いや寝返りで移動可能
- ・ 「あ」という発声で人を呼ぶ
- ・ 「ぱ」という発声で応えられる

Aさんと報告者との係わり合い



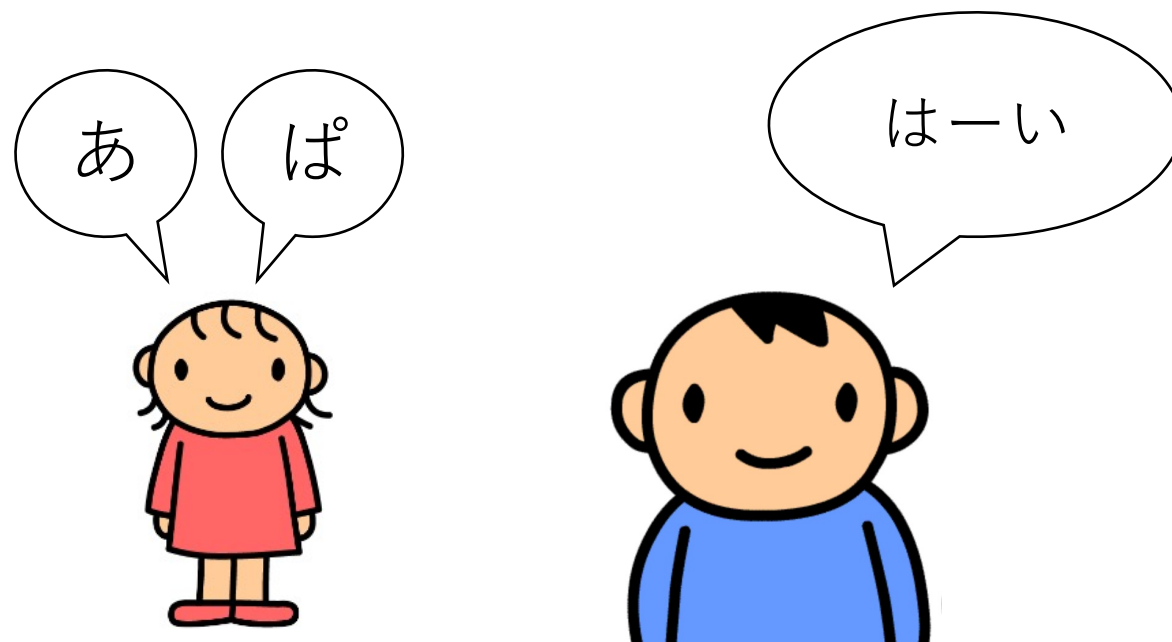
実践開始(2017年4月)の時点で、3年目

1年目 隣のクラス



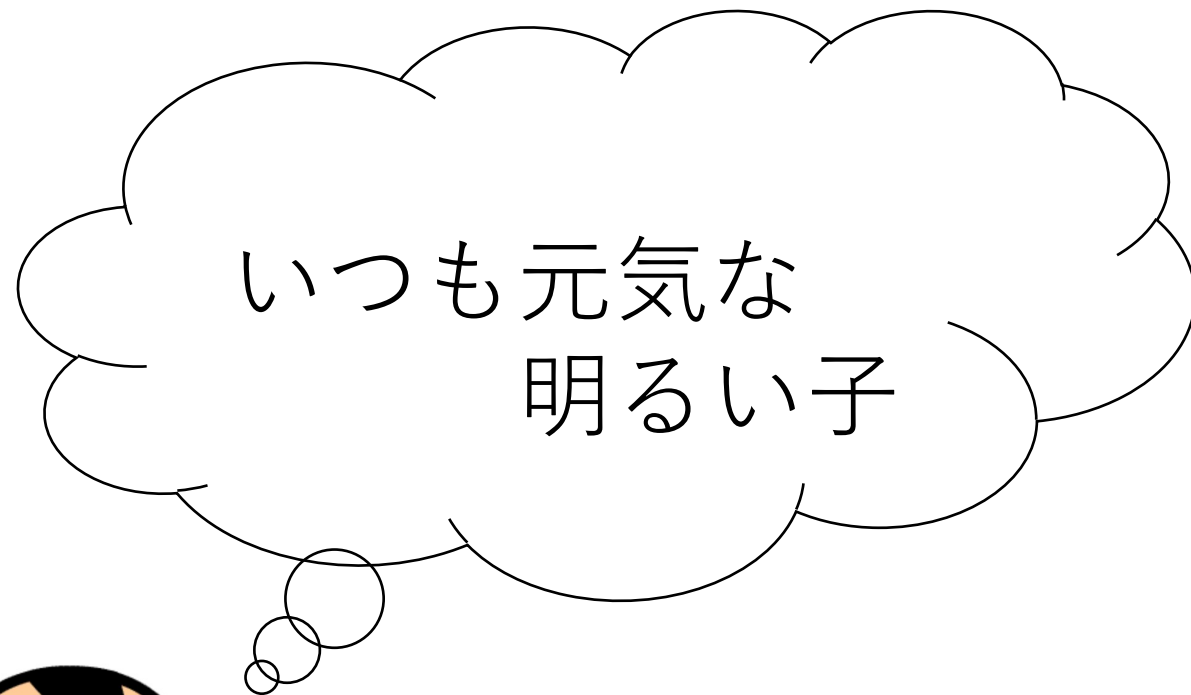
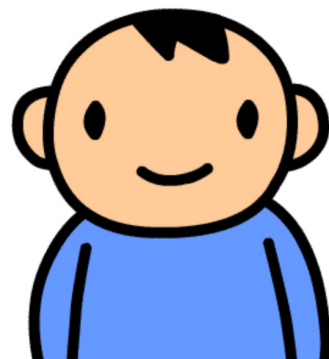
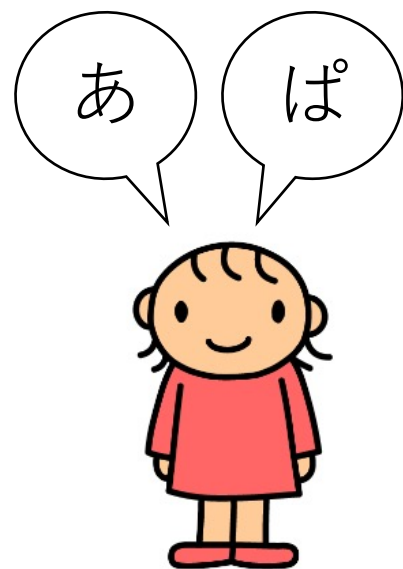
「いつも元気な明るいい子」という印象だった

2年目 同じクラスに



同じクラスになっても、しばらくの間は・・・

2年目 同じクラス



印象が大きく変わることはなかった

しかし、ある日の出来事...

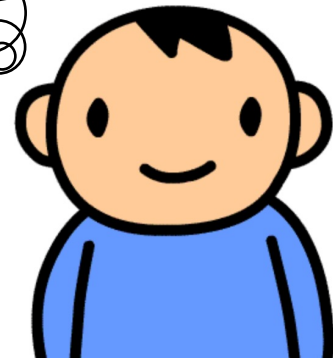
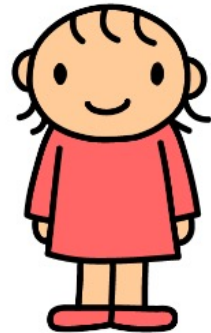


突然、悲しそうな表情、泣き出しそうな声

➡ その日は、気持ちをずっと我慢していたのかも

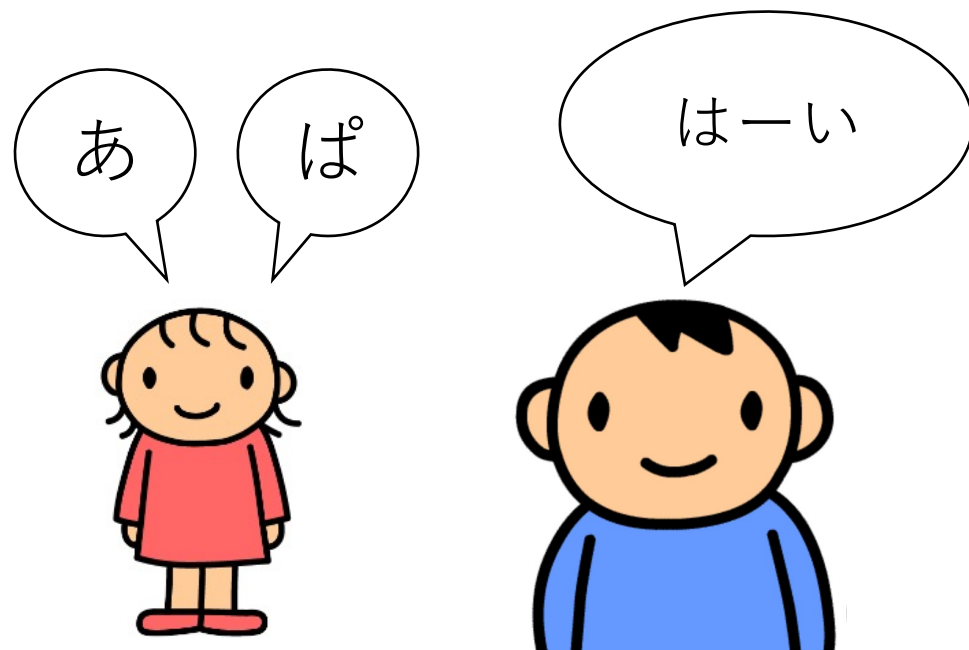
2 年 目 その出来事をきっかけに

Aさんは今、どんな
思いなのかな

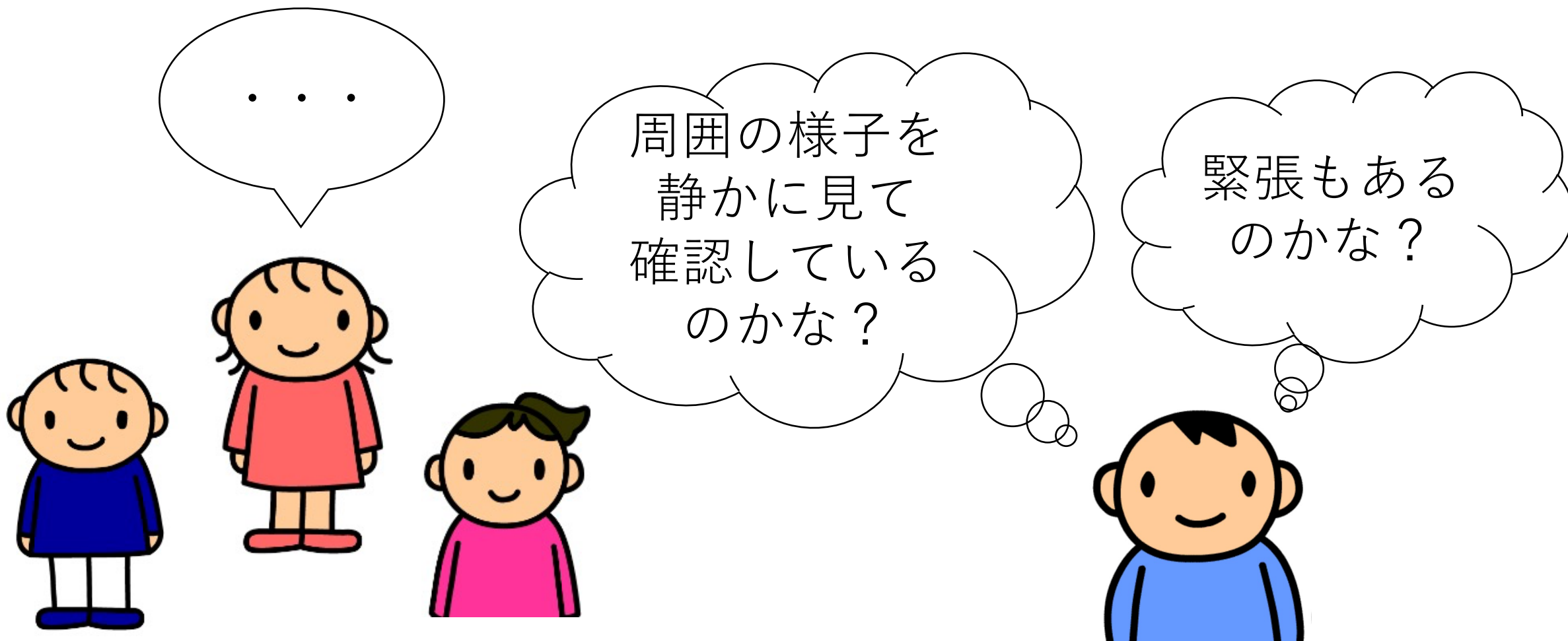


それまで以上に考えるように

3 年目 再び同じのクラスに

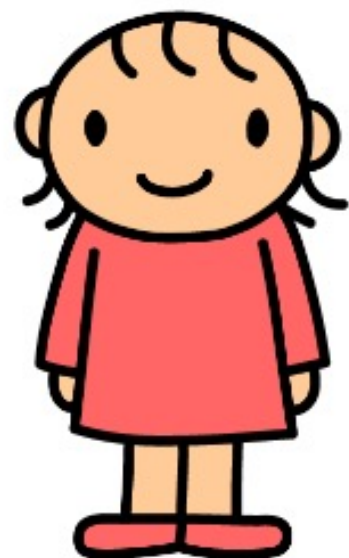


3年目 ある気づき 新しい環境下でのAさん

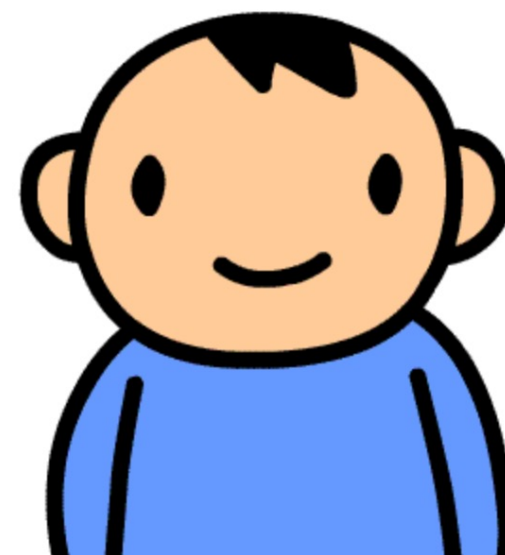


3 年 目

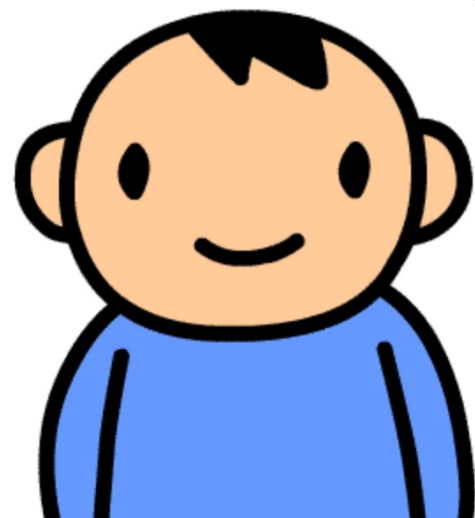
気疲れしたり、
我慢したりすること
あるのでは？



私にできること
は何だろう



とはいえ・・・

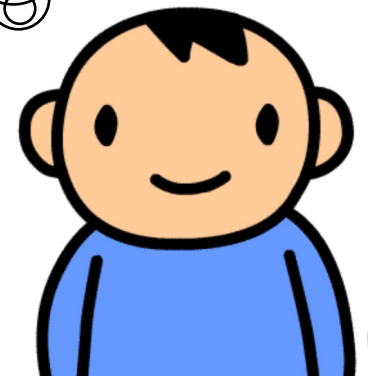


どこに着目して、
どうアプローチ
すればいいんだ
ろう...

そんな中での、魔法の言葉プロジェクト



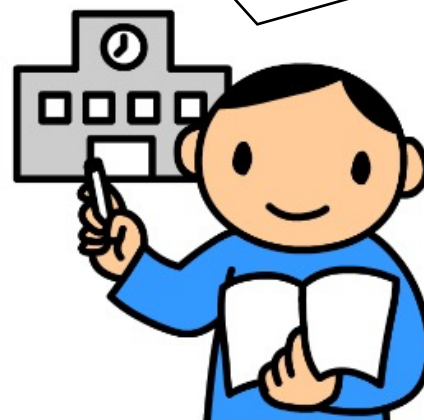
自分にできる
のかな・・・



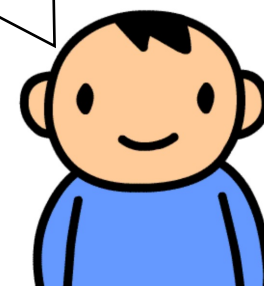
導入セミナー（5月）で・・・



”前提を疑う実態把握”



よーし、
やってみよう！



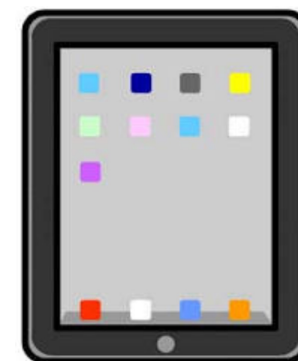
魔法のティーチャー

取り組み①

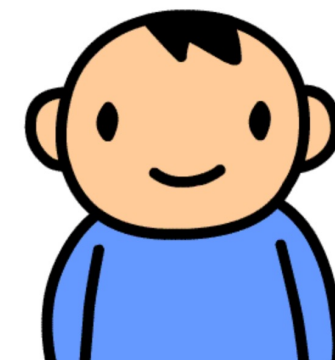
やりとりの様子を動画記録で観察



前提を疑う実態把握！



- ・まずは生徒がどんな構造でやりとりをしているのか、説明できるようになってからアプローチする（それが一番大事）
- ・生徒のやりとりの構造をつかめれば、たとえ短期間でも教育成果は現れる！



1 学期の様子（4 月～8 月）

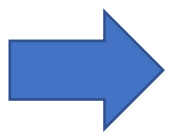
【やりとりの様子】

- ①問いかけに「ぱ」という発声で応える
- ②食事の場面では、苦手な食べ物を「いない」と手で押し返すことができる
- ③休み時間などは、本人の好きそうな物を教員が手渡ししていた



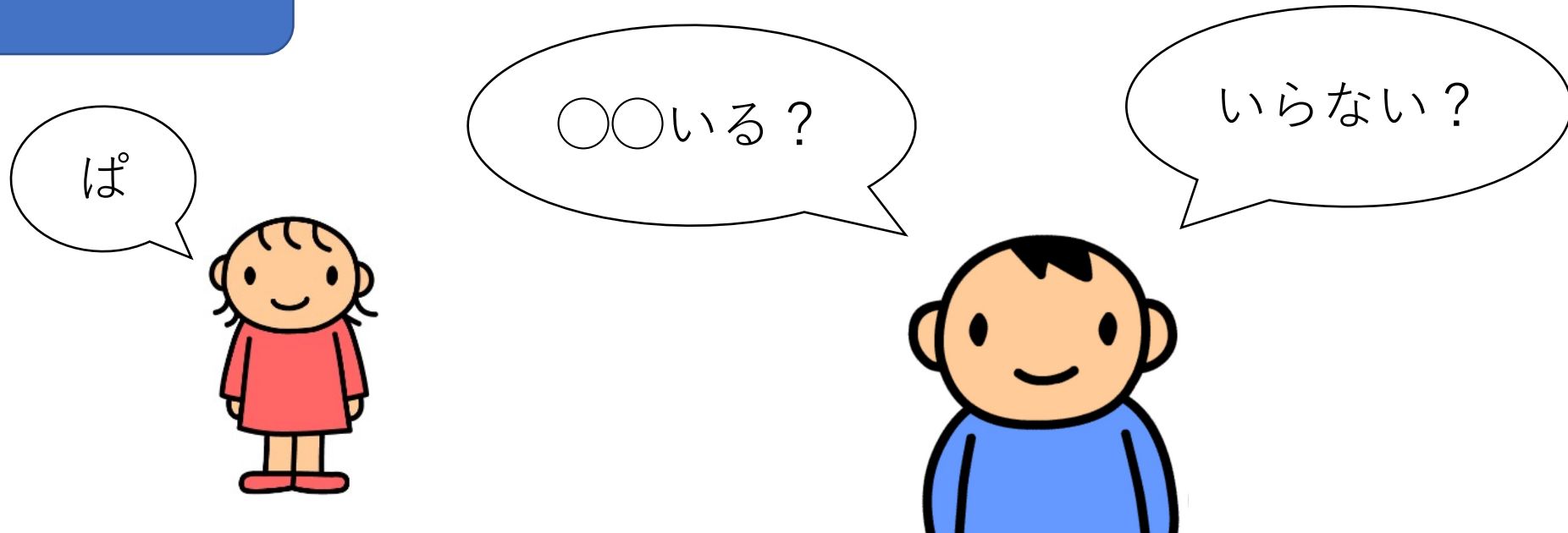
休み時間に、好きな玩具を2つ提示されている場面

- ・食事の場面では「いる／いない」の意思表示があるが、それ以外の場面では教員の読み取りが中心の係わり



食事以外の場面でも、明確な方法で「いる／いない」の気持ちを伝えることができるのではないか

当時の仮説

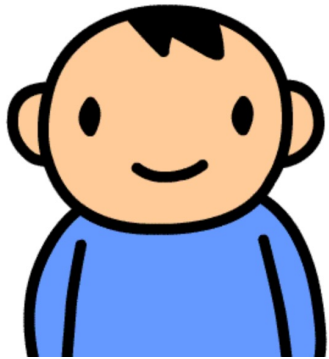
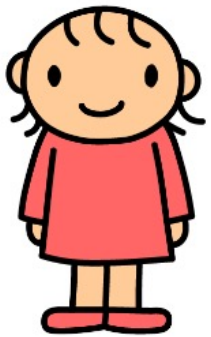


- ・ 問いかけに「ぱ」という発声で応えることができる
→ 「ぱ」で「いる／いない」の選択をできないか

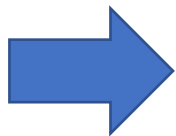
しかし、
「やりとりの構造」としては...

〇〇いる？

いない？



どちらもAさんには、
「あなたの気持ちを汲み取ろうか？」
といった意味合いで聞こえているかも



やりとりのフォーマットを整理

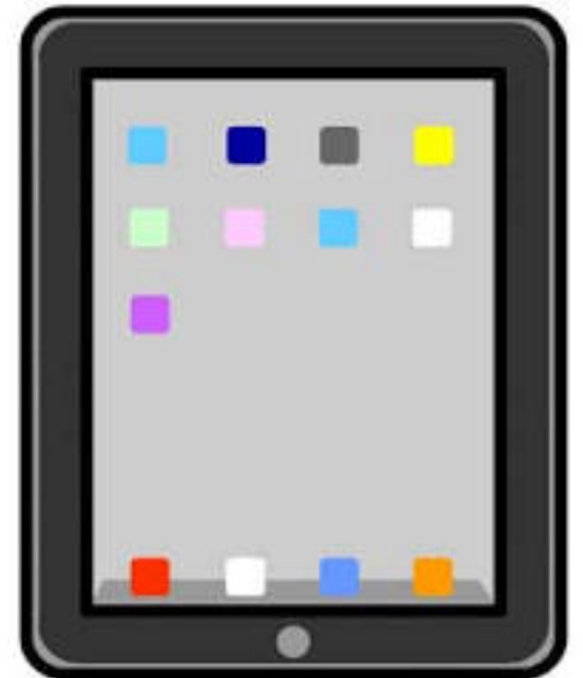
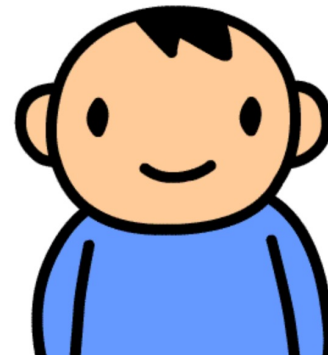
取り組み③へ

取り組み②

「～してほしい」と自分から発信できる環境づくり

個別スペースの設置

VOCAの設置・音声の検討



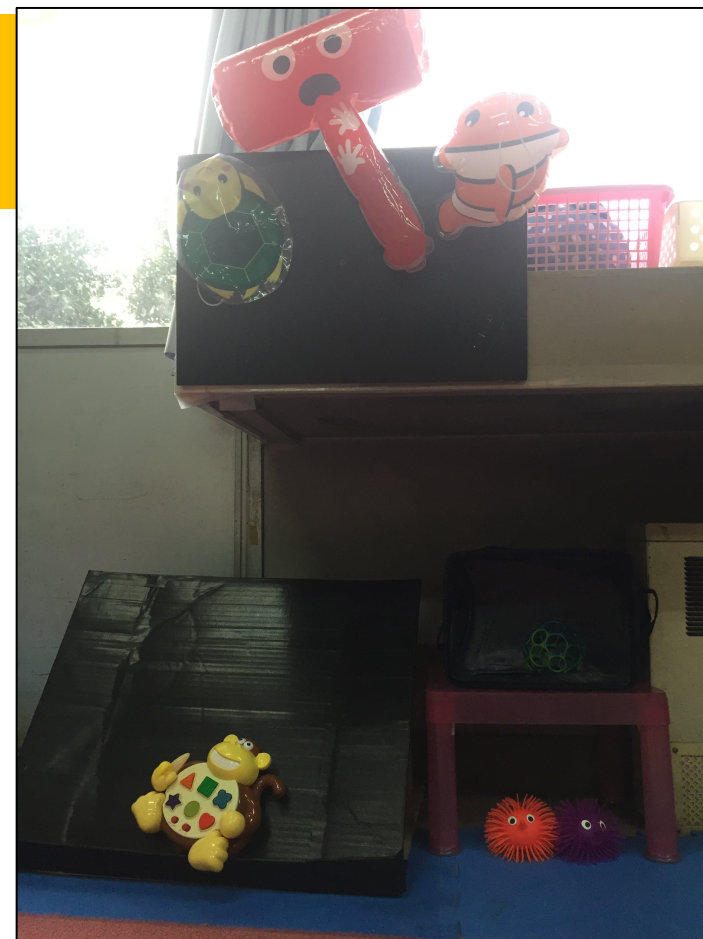
2 学期前半(9～10月) の様子

【環境設定】

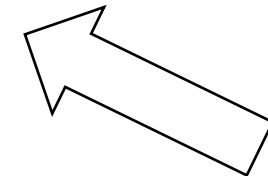
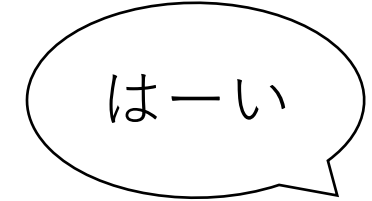
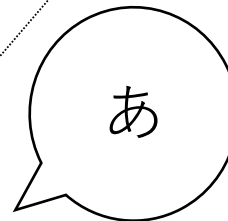
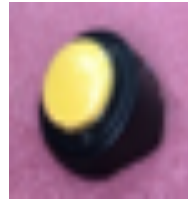
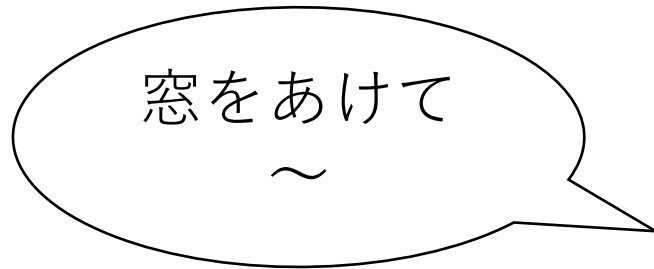
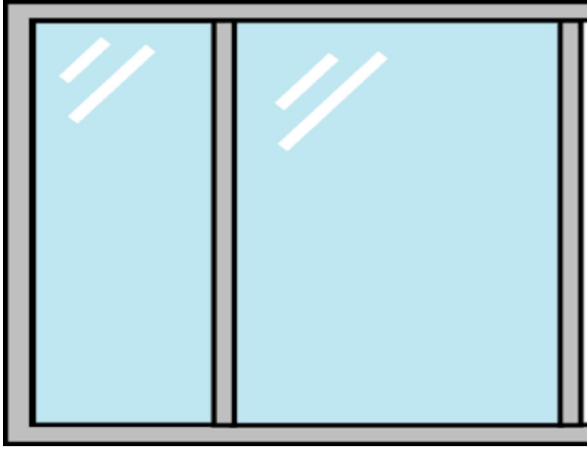
- ①本人の好きな玩具（ビニール）
を高い位置に置く
- ②「窓を開けて」の音声が入った
VOCAを設置する

【ねらい】

- ①高い所にあって取れない時は、「あ」と呼んでほしい
- ②窓を開けてほしい時は、「窓を開けて」のVOCAを押
して伝えてほしい

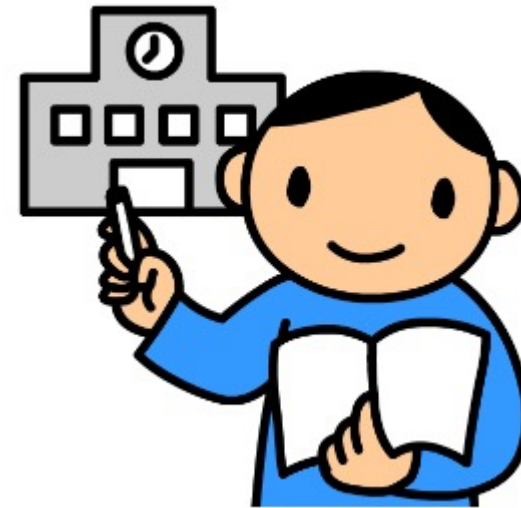


やりとりの構造としては・・・



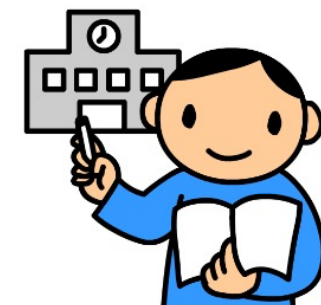


ここでVOCAについて
魔法のティーチャーから
アドバイス



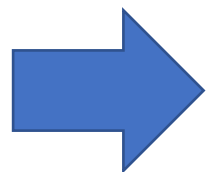


「注意喚起」と「意思の伝達」を ”分ける”ことの大切さ

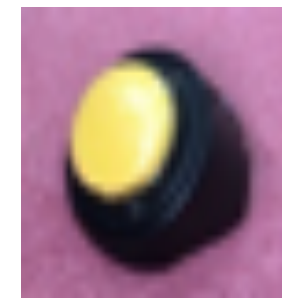


VOCAの音声が「窓を開けて」だと...

VOCAに「人を呼ぶ」（注意喚起）機能と
「ほしい物を伝える」（意思の伝達）機能が
混同されている

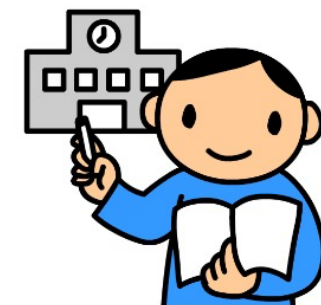


本人の伝えられることが
制限されてしまう



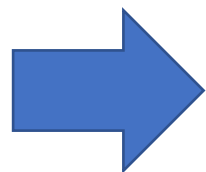


「注意喚起」と「意思の伝達」を ”分ける”ことの大切さ

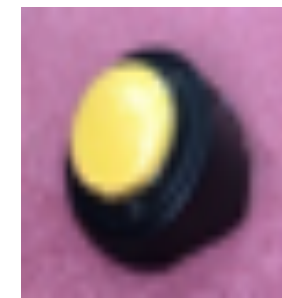


VOCAの音声を「せんせーい」に変更

- ・ VOCAには「人を呼ぶ」（注意喚起）機能のみ
- ・ 呼ばれた教員はそばへ行き、してほしいことを尋ねる



より「本人の願い」に近づける
支援が可能

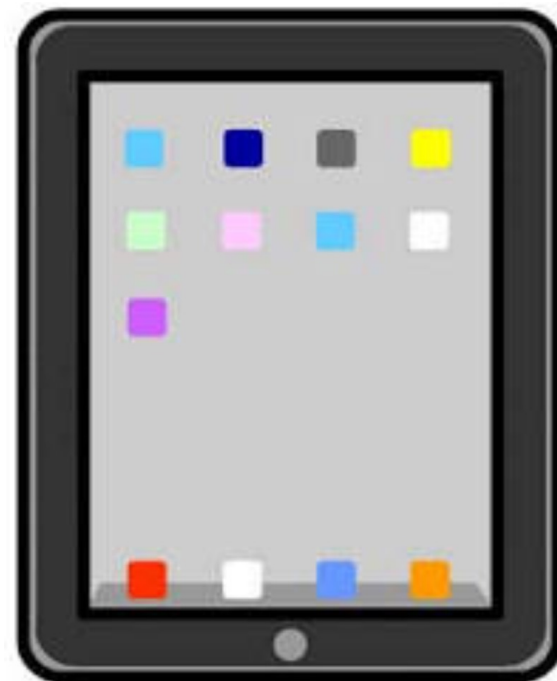
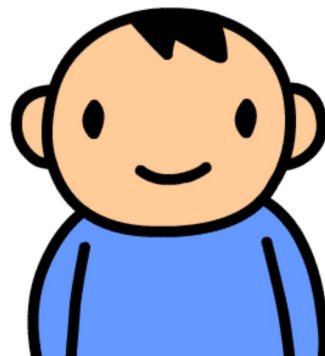


取り組み③

「いる／いない」を表現できるようになる

個別スペースの変更

やりとりフォーマットの
整理



2 学期後半(11～12月) の環境設定

【環境設定】

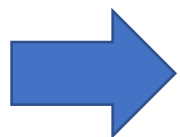
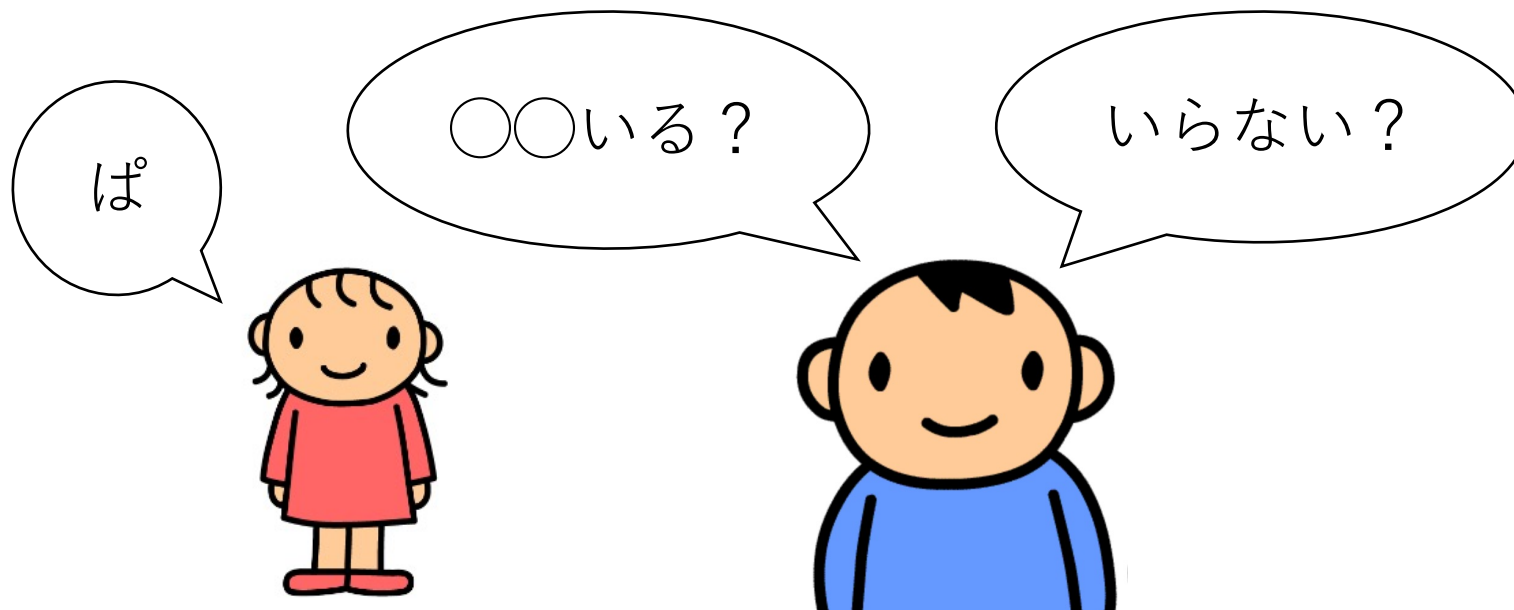
- ①VOCAには「せんせーい！」の音声
- ②透明のケースの中に好きな玩具



【ねらい】

- ①してほしいことがあったら、VOCAや発声で教員を呼ぶ
- ②教員からの提示や確認に「いる／いない」で応える

取り組み①から

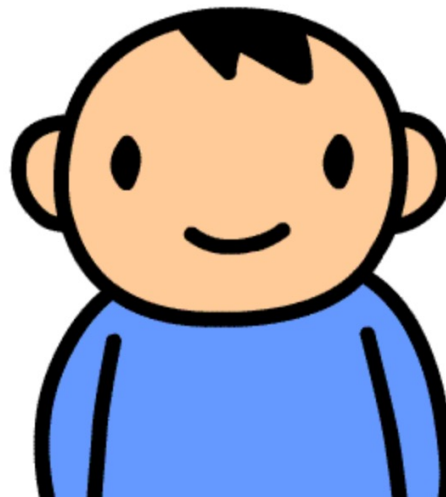


やりとりのフォーマットを整理

修正版やりとりフォーマット①

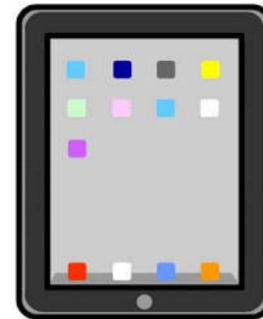
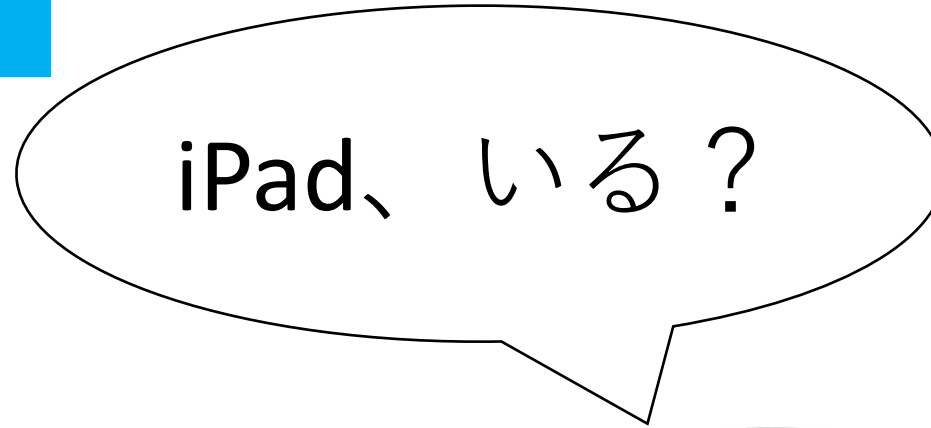
【「ほしい」とき】

iPad、いる？



修正版やりとりフォーマット②

【「ほしい」とき】



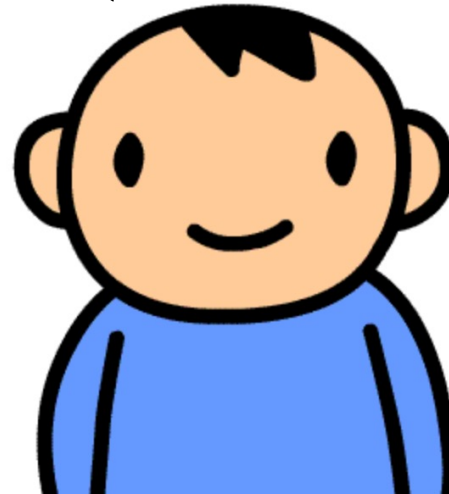
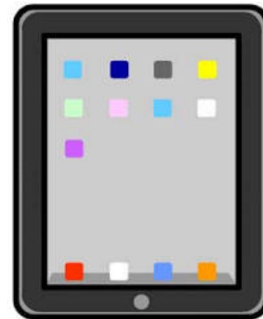
修正版やりとりフォーマット③

【「ほしい」とき】

ぱ（うん）

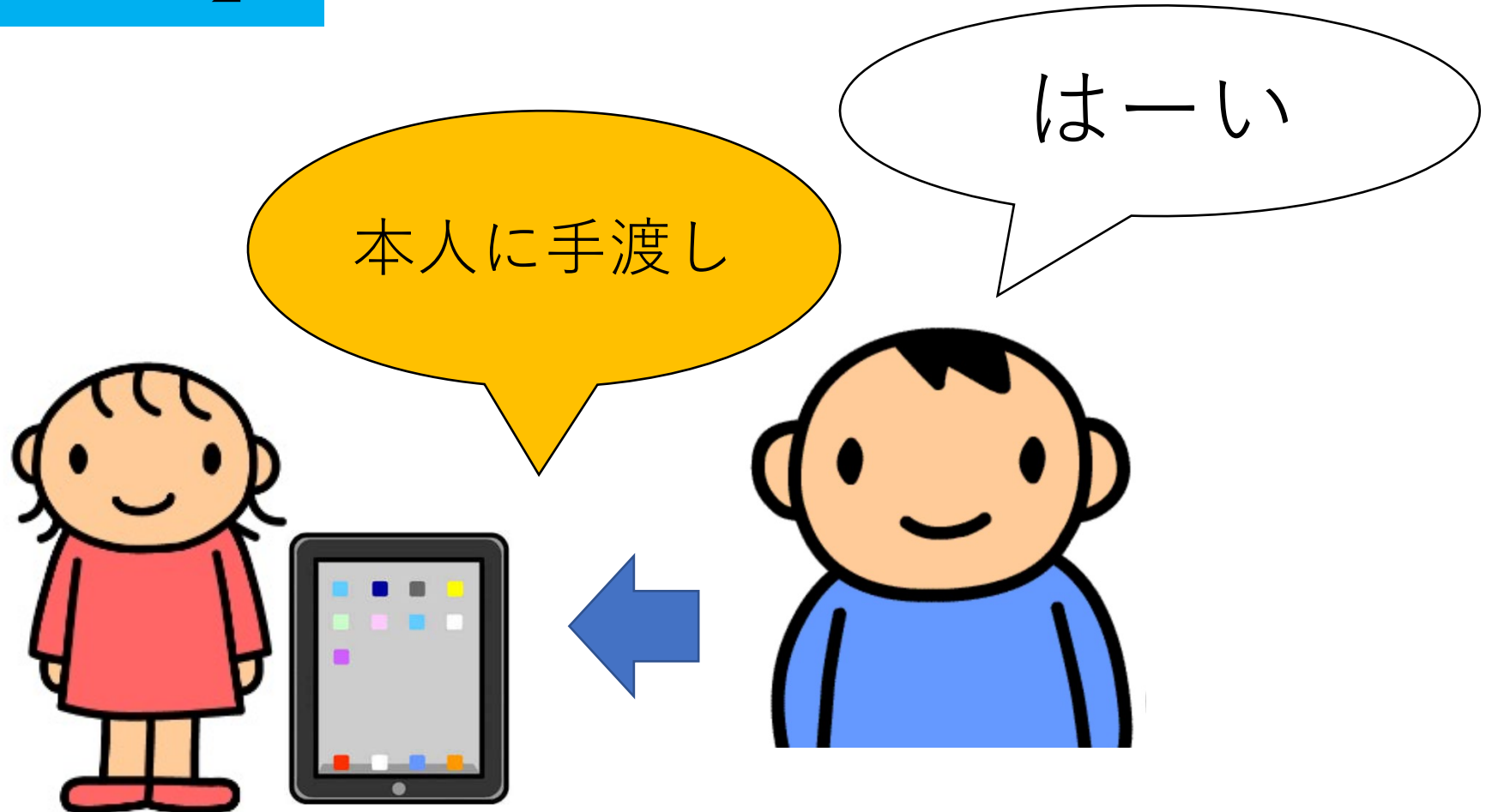


iPad、いる？



修正版やりとりフォーマット④

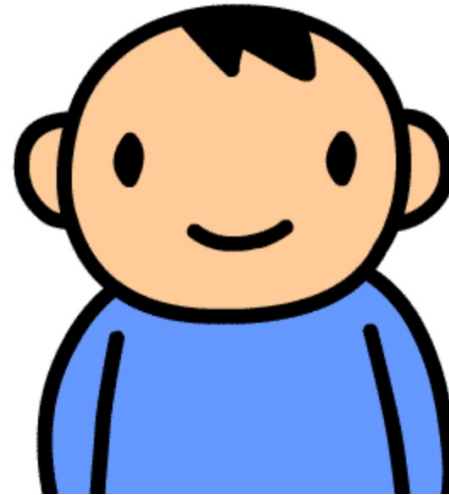
【「ほしい」とき】



修正版やりとりフォーマット⑤

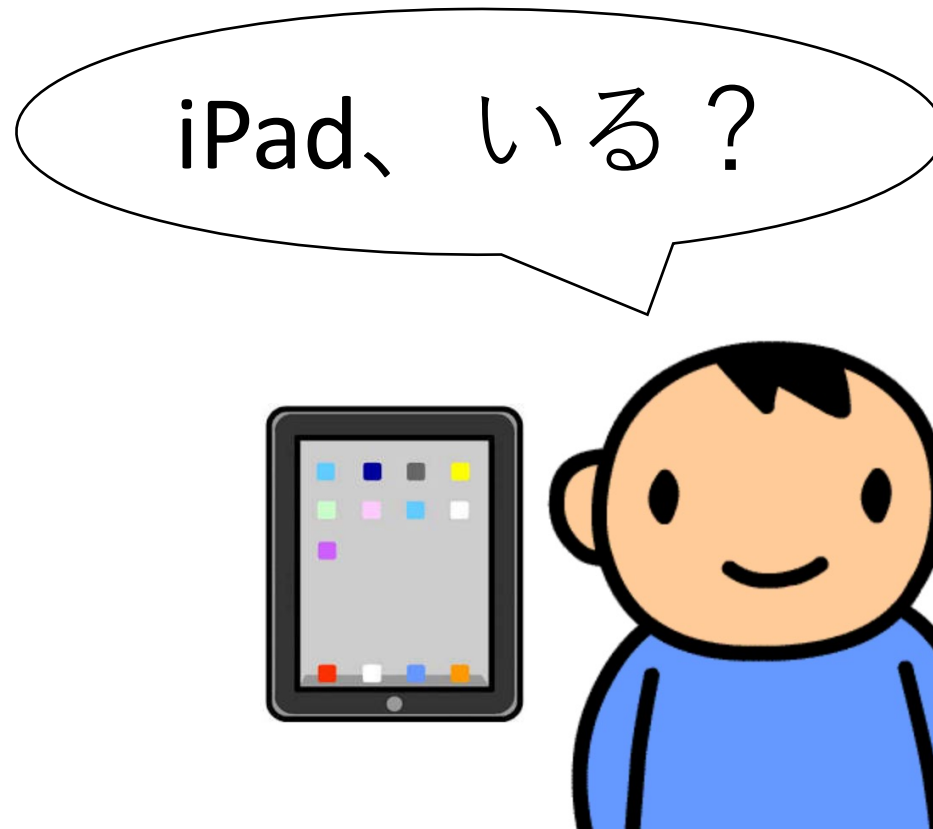
【「いない・わからない」とき】

iPad、いる？



修正版やりとりフォーマット⑥

【「いらない・わからない」とき】

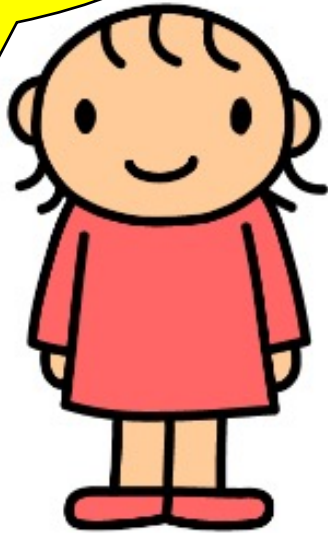


修正版やりとりフォーマット⑦

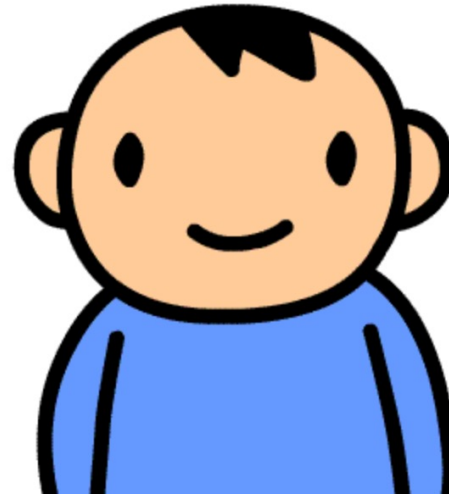
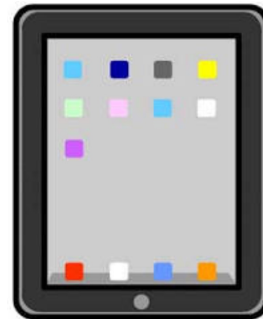
【「いない・わからない」とき】

・ ・ ・

(いないよ・
わからないな)



iPad、いる？



修正版やりとりフォーマット⑧

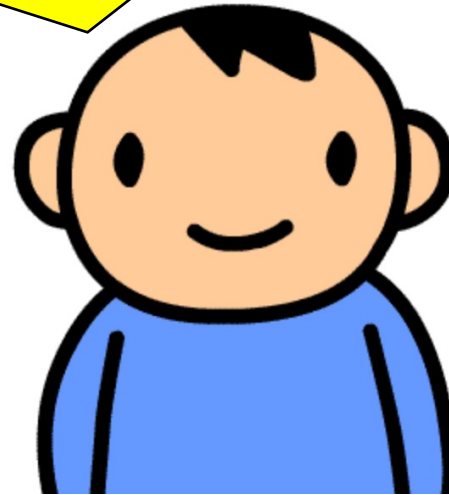
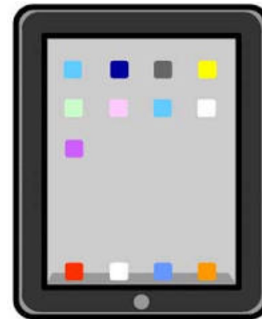
【「いらない・わからない」とき】

...

(いらないよ・
わからないな)



いらないのかな、
はい

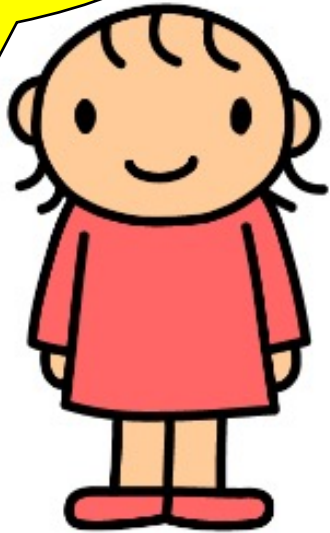


修正版やりとりフォーマット⑨

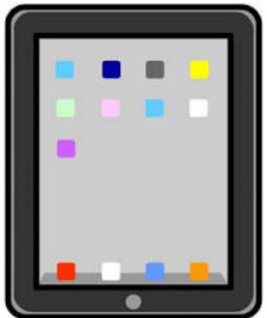
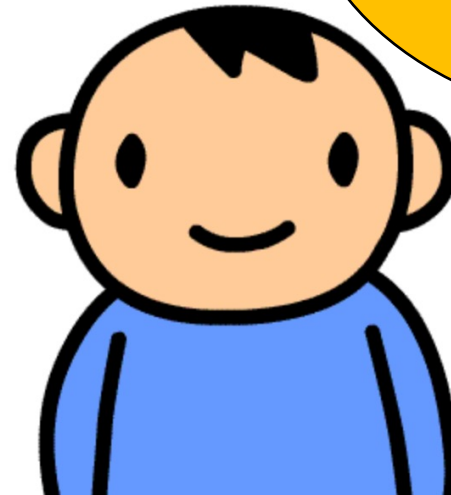
【「いらない・わからない」とき】

・ ・ ・

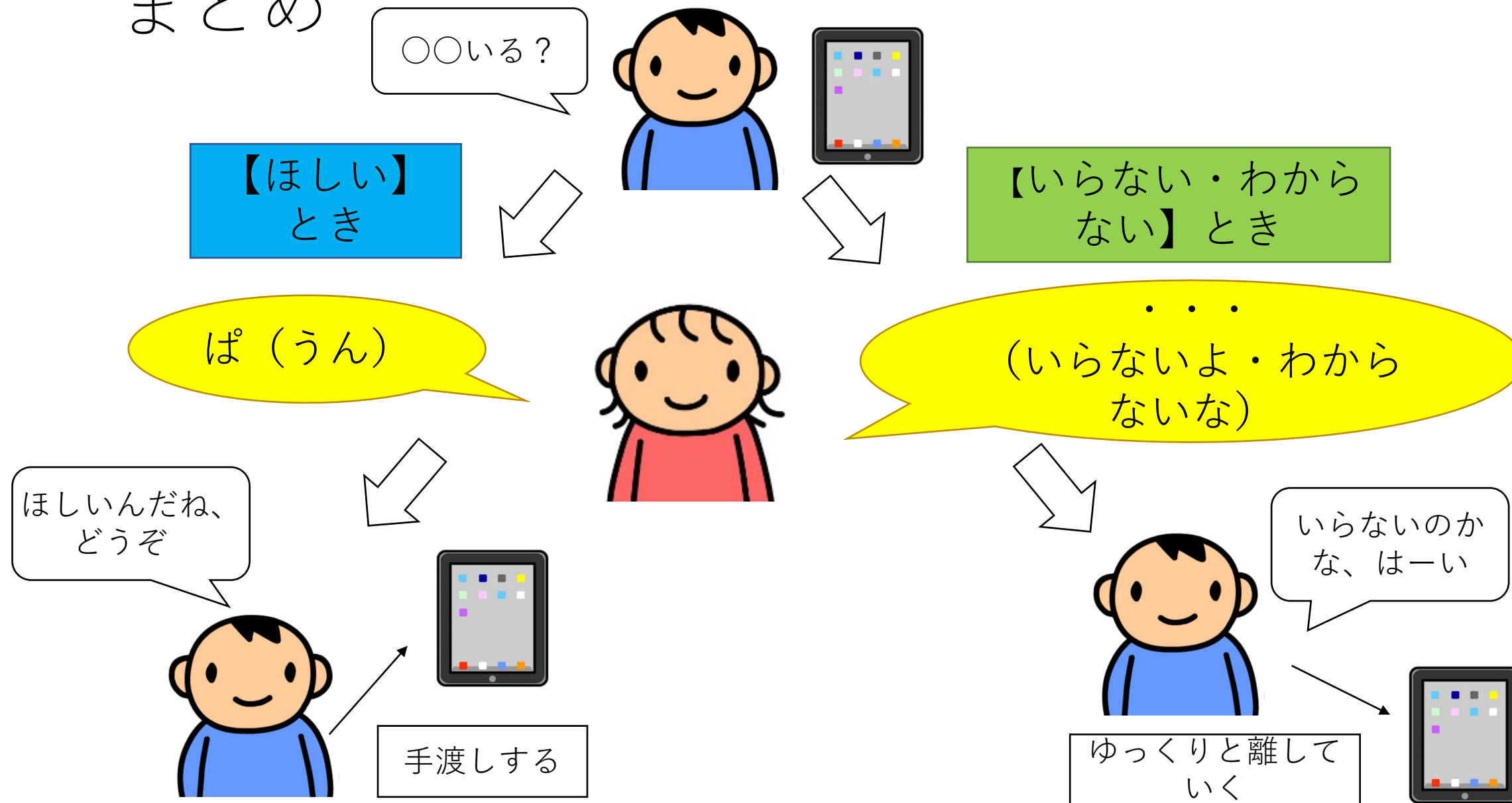
(いらないよ・
わからないよ)



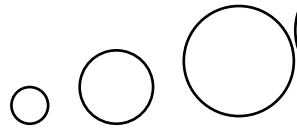
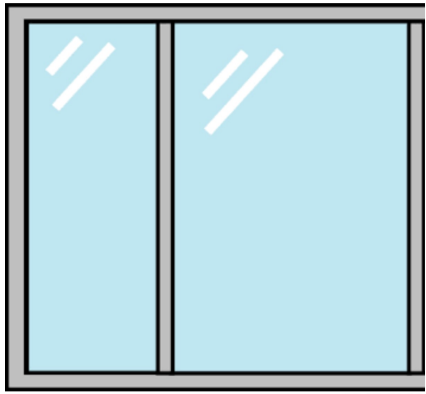
本人のそば
から物を
ゆっくり離す



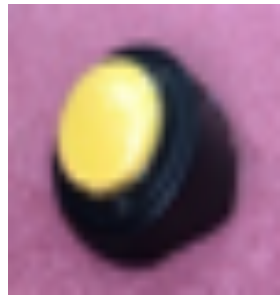
修正版「いる／いない」やりとりフォーマット まとめ



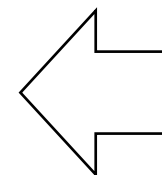
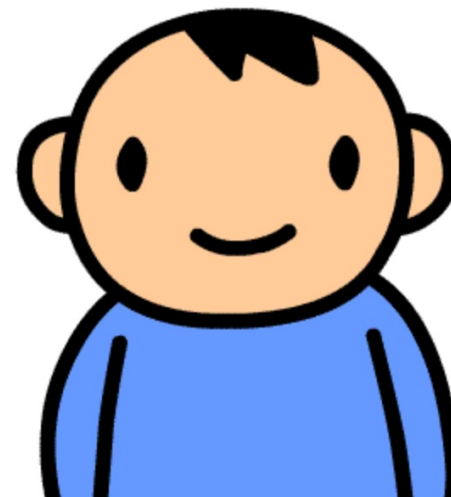
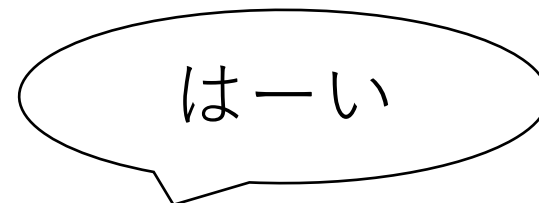
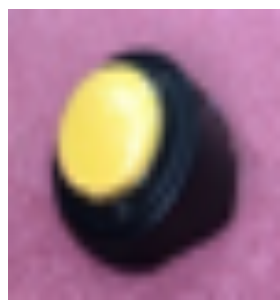
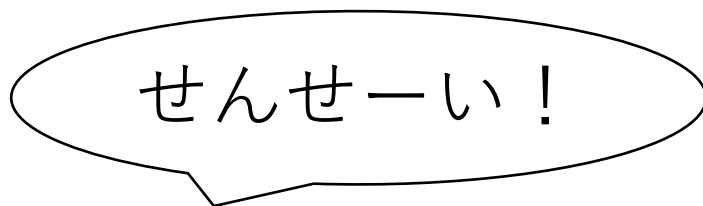
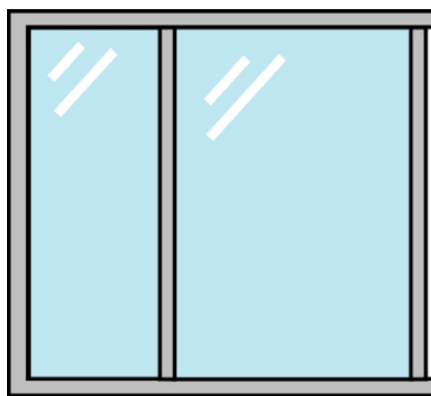
以上のやりとりフォーマットに・・・



窓を開けてほしいな
よし、先生を呼ぼう



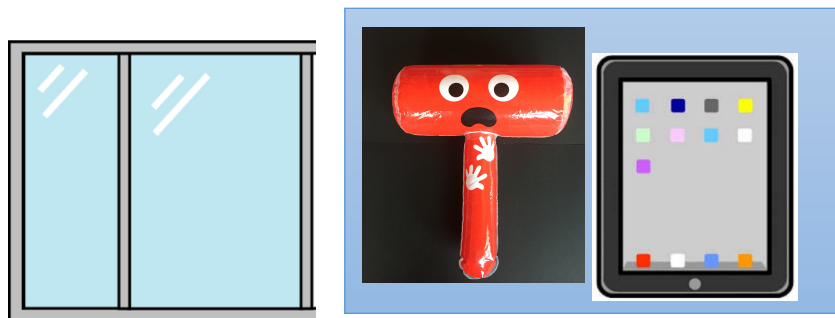
取り組み②の VOCA「せんせーい」を組み合わせると



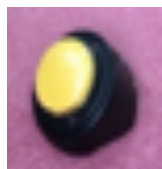
① 「してほしい」 ことがあった時



VOCAで教員を呼ぶ（注意喚起）



せんせー
い！



窓を開けて
ほしいな
そうだ、先生
を呼ぼう

はい

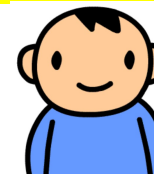


② 「いる／いない」 を伝える



【いる】 ときは「ぱ」、【いない・わからない】 ときは「...（無言）」

〇〇いる？



【いる】

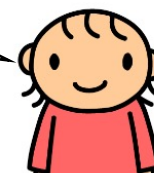
【いない・わからない】

ぱ（うん）

ほしいんだ
ね、どうぞ

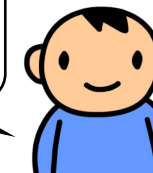


手渡しする



...
(いないよ・
わからないな)

いないのか
な、はい



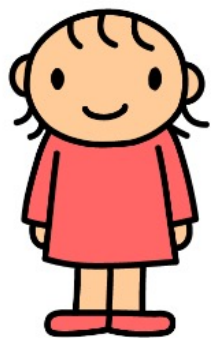
ゆっくりと離して
いく



Aさんの変容とエピソード

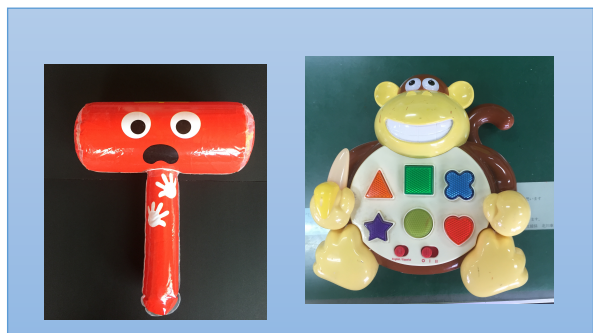
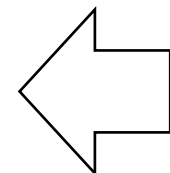
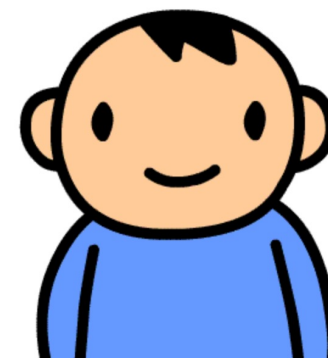
「いる／いない」の取り組み当初は・・・

ビニールの玩具が
ほしいな。よし、
先生を呼ぼう。

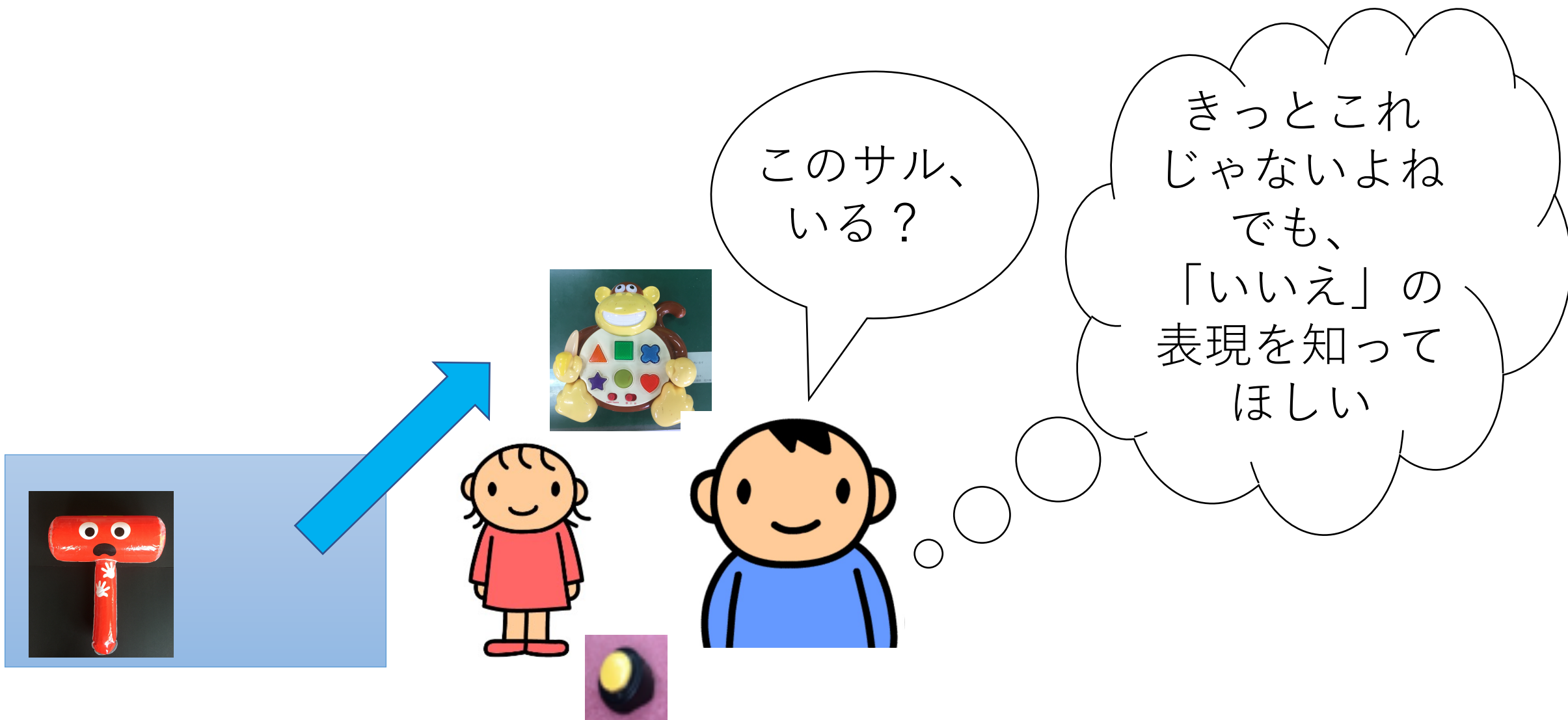


せんせーい！

はい



「いる／いない」の取り組み当初は・・・

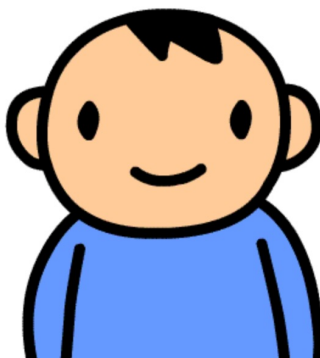
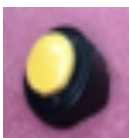
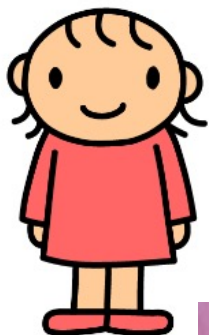
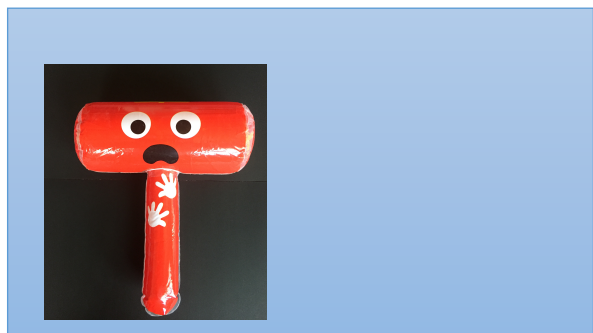


「いる／いない」の取り組み当初は・・・

ぱ

はい、
どうぞ

ごめんね

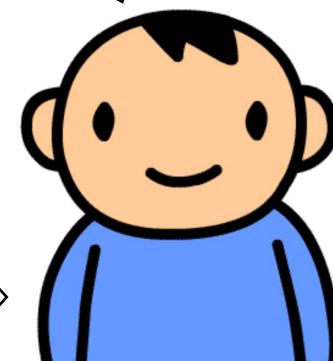
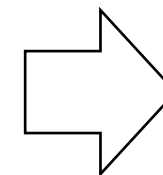


「いる／いない」の取り組み当初は・・・

ほしくないのが
きちゃった・・・




また呼んでねー
(ごめんね)



変容のきっかけ

変容のきっかけ①



はい、いいですよ

Aさんに呼ばれたら、
何が必要なのか聞いて
もらえますか？

クラスにサポートで入ってくれた
先生や、実習で来てくれた学生さん

変容のきっかけ①

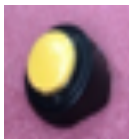


変容のきっかけ①

ケースを
トントン
叩く



そっちじゃ
なくて、
これだよ

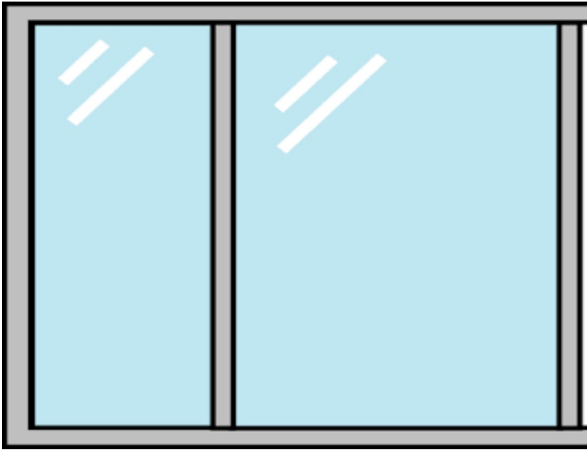


...

これかな？

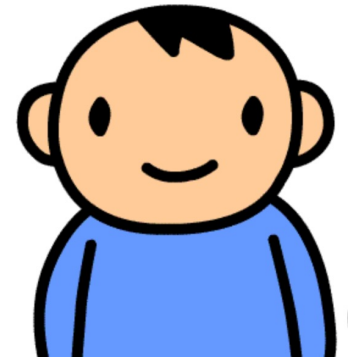


変容のきっかけ② 冬の寒い日に

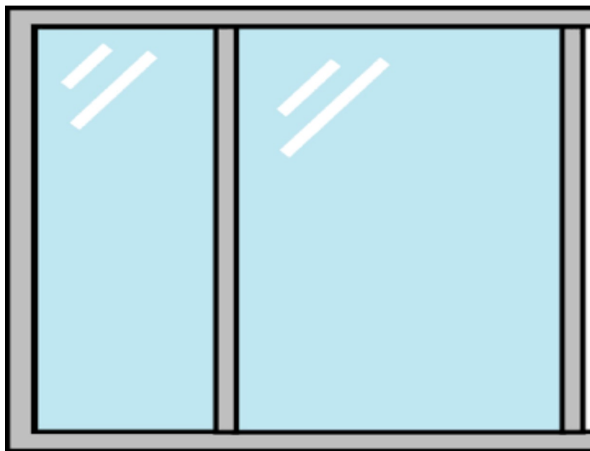


せんせーい！

は〜い！



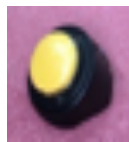
変容のきっかけ②



ぱ

体の動きを止めて、
窓をじっと見ているな

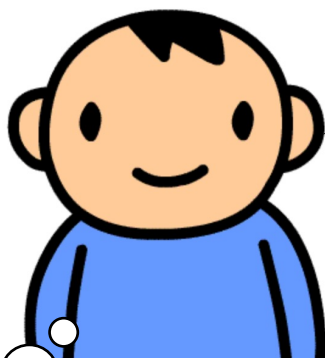
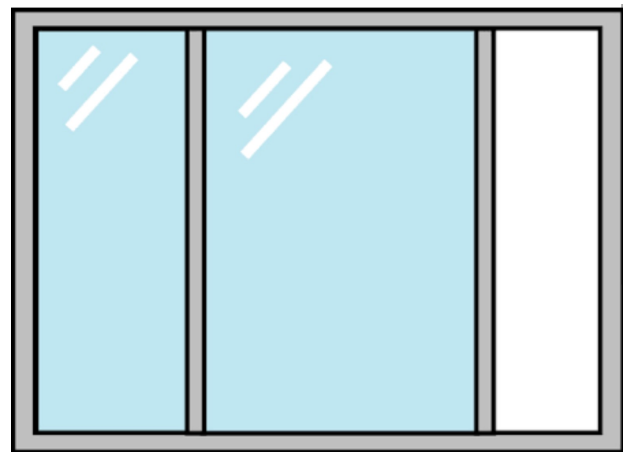
窓？（開けて
ほしいの？）



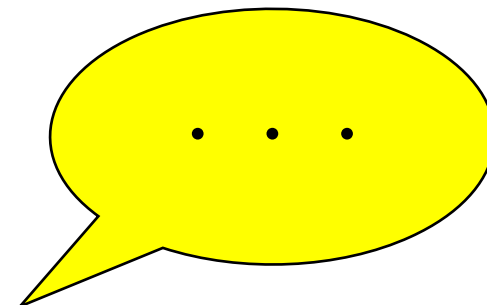
変容のきっかけ②

しばらくして、教室が
寒くなってきたので・・・

変容のきっかけ②



Aさん、
窓、閉めていい？



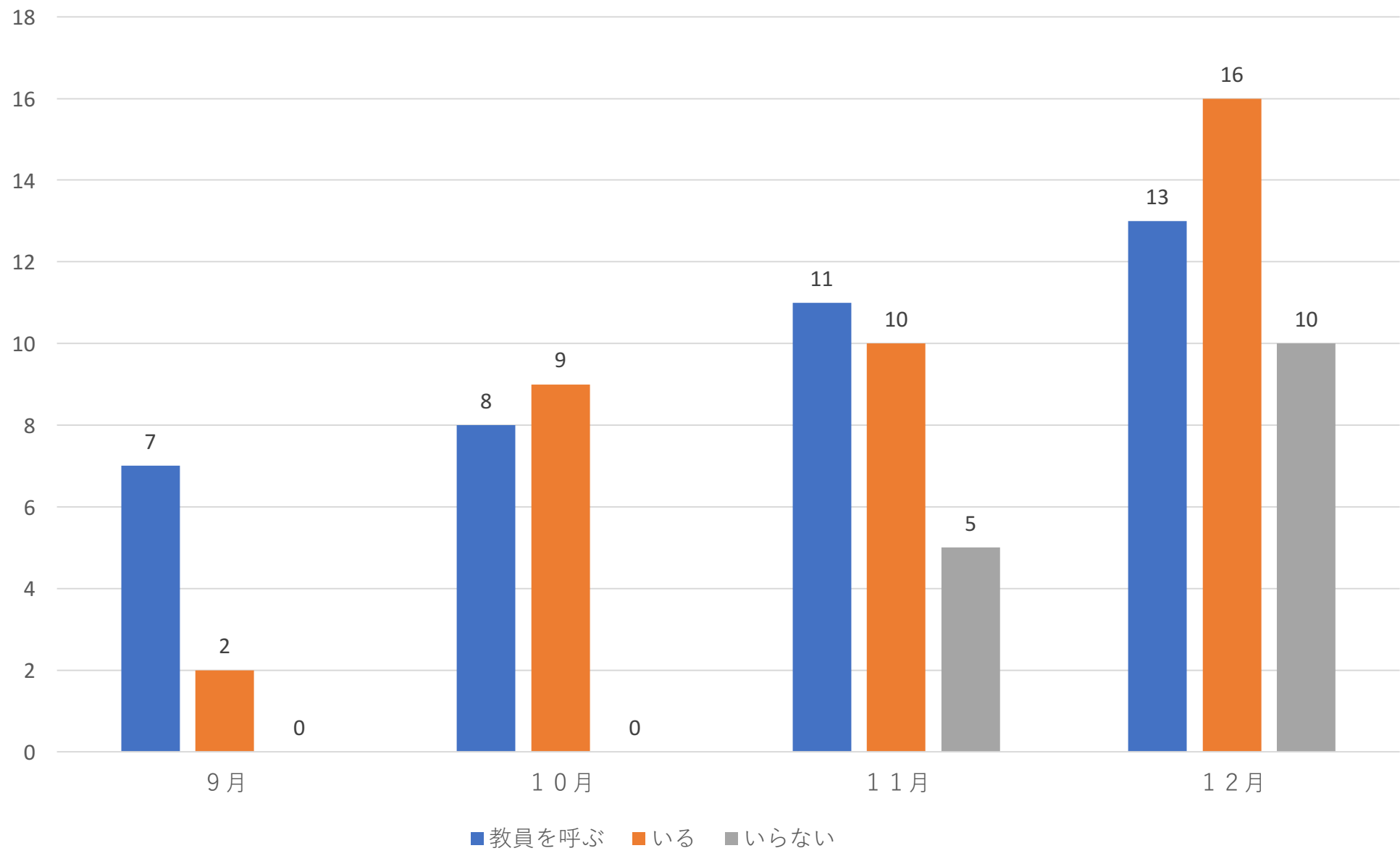
閉めてほしく
ないんだな



Aさんにとって、「いいえ」を
伝える必然性のある場面

生徒の変容

やりとりの変容

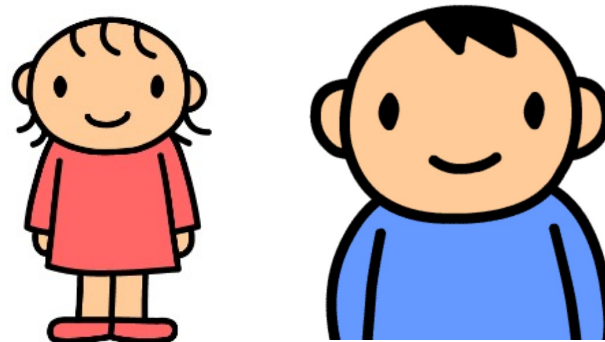


教員の気づき・実践の振り返り

教員の気づき

肢体不自由のある子どもの「気持ちを読み取って係わる」ことはもちろん大事であると思うが、同時に、

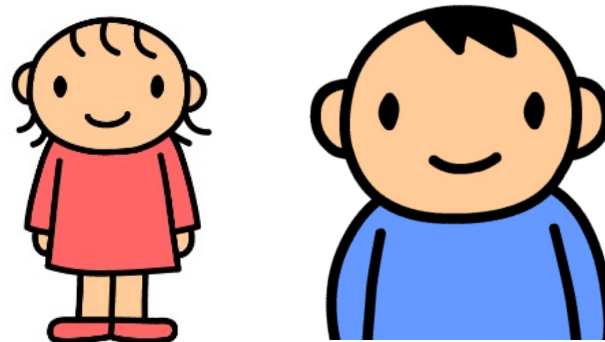
子どもの「判断して、伝える力」を育むためには、
「本人が試行錯誤する機会をあえて設定する」
(学習の機会を本人から奪わない)
ことも必要なのではないかと思った



教員の気づき②

重い肢体不自由や重複障がいのある子を担任していると、
「その子のことを知っていたい」と思うがゆえに

「○○さんはこれが好き」・「こんな人」と
「本人像」を積み上げていってしまう傾向がある
のかもしれない、そしてそれは必ずしも
悪いことではないのかもしれない

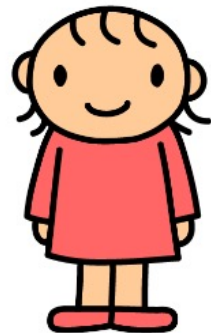


教員の気づき②

しかし、「その子のよりよい生活と学び」のためには、
「本当はどうかな？」と一旦「イメージや主観をストップ」し、

「より確からしい事実」を丁寧に
積み上げていく

「前提を疑う実態把握」や「黙って見るコミュニケーション」
が必要なのではないか



ICTは、そのために
こそ貢献できるの
では、と思いました。

ご静聴ありがとうございました

